

ヒトの散歩道

ヒトのアイダ

「ひとりのまつがワク」

「人づきあひなごてわすりわしへ」

他人とあまりかかわりたくない
いふ人が増えていくよう

ですが私たちの社会では
どこを切りとつても

人の手を介しないものはありません

「人間」といふ字は

「ひとのあいだ」と書きます

この言葉から思い浮かぶのは

私たちとはさまでまん人の間にで

支えられて生きている

といふイメージです



上にいる人 下にいる人
前にいる人 後ろにいる人
私たちもしつかりと人の間に立ち
人と人をつなぐ人間になりたいのです

255
毎月発行

※ポストに入れておいてください。おまこたじを許してください。

真実の種

種をまき、土をかぶせて
芽が出るときをじっと待ちます。

途中で気になつて
土を掘りかえしてしまつたら

もう芽が出る」とはありません。



善いおこないをしたとき、人間は

周囲にそのことを言い広めたくなり
ややもすれば、自己アピールのために

善いおこないをするといふ具合に

目的がすり替わつてしまつ」とがあります。

「心から真実時いた種は埋つてある。」

(明治二十三年九月三十日 おとしづ)

天理教の教祖・中山みき様は
人間がたすけあい、よろいびあつて
暮らす世界を実現するための行動を
「種時き」にたとえられました。

善いおこないも、人に見てほしいから
するといふのでは、種を土に埋めず
だれの目に見えるように
高い場所にでも置いておくようなもの。
けつして芽が出ることはありません。

たとえ、だれかに見てもうえなくとも
人様によろいびなどもういたい。
といふ誠心誠意からのおこないは
しつかり土中に埋められ、旬が来たら
大きなよろいびとなつて芽生えてくるのです。

■私たちの信仰させていただいている神様は
天理王命(てんりおうのみ)と様と申し上げます。
何も無いといふから人間世界を創造された神様です。
私たちは、天理王命様を親神様(おやがみさま)と
お呼びして、お慕い申しております。
■天保九年(1838)、親神様の御教えが、教祖(おやさま)
中山みき様によって、初めて伝えられました。